

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和7年4月号



「稼げる農業」の実現に向けた 園芸振興の取組について

千葉県農林水産部生産振興課
課長 高木 葉子

本県の園芸は、県農業産出額の約5割を占める重要な部門であり、令和5年の園芸産出額は1,856億円（いも類含む）となりました。県では、千葉県農林水産業振興計画において掲げた「園芸生産の拡大に向けた力強い産地づくり」に向けた施策を展開し、「稼げる農業」の推進を図ってまいります。

1. 本県園芸を取り巻く情勢の変化

本県の園芸は、大消費地である首都圏に位置する立地条件や、温暖な気候に恵まれ年間を通じた生産が可能であるなど他県にはない強みを生かし、野菜ではねぎ、さつまいも、にんじん、トマト、果樹では日本なし、びわ、花植木ではストック、カーネーション、シクラメンなど、全国でもトップクラスの産出額を誇る品目が多く生産されています。

しかし、近年は担い手の減少に伴う生産量の減少や集出荷施設の老朽化、夏季の高温等温暖化の影響や大型台風や降雹などの気象災害の頻発、燃油や肥料等生産資材価格の高止まりなど、園芸生産を取り巻く情勢は一段と厳しさを増しています。さらに、全国的な労働力不足や物流業界の2024年問題への対応など、他産業の動向や将来の情勢を見据えた対応も求められています。

2. 県による園芸振興の主な取組

本県の優位性を最大限に発揮し、また情勢の変化に柔軟に対応しながら、将来にわたり本県農業をけん引する担い手への支援の充実を図り、「稼げる農業」を推進し、園芸生産の拡大に向けた力強い産地づくりに取り組んでいきます。

園芸全体としては、園芸用施設の整備や省力化機械、スマート農業機器の導入により、収量・品質の向上を図るとともに、夏季の記録的な猛暑や乾燥により、様々な園芸作物に障害が発生している状況を踏まえ、高温対策に取り組んでいきます。

野菜については、(公社)千葉県園芸協会を核とした産地間連携の更なる強化により、強化品目に位置付けられた産出額上位4品目（ねぎ、さつまいも、

にんじん、トマト）の生産と販売両面での課題解決を図り、市場における地位の堅持と産出額の増加を目指します。また、国内外で需要が急拡大しているさつまいもについて、生産・流通体制の強化に必要な施設整備を前年度に引き続き、集中的に支援します。

果樹については、梨栽培における花粉の安定確保対策や改植の推進、多目的防災網の整備による気象災害に強い果樹産地を引き続き推進します。また、生産性向上を図るためのAIやICTによる省力化の検討やワンストップ窓口の設置などに取り組むとともに、びわ産地における園地の集約化や新たな出荷体制に向けた取組を進めます。

花植木については、温度や衛生管理等による花持ち性向上やデジタル化による出荷情報の迅速な発信など実需者のニーズに対応できる産地づくりや、本県産花植木の消費拡大に向け、千葉県フラワーフェスティバル等によるPR、花育活動を進めます。さらに、「植木伝統樹芸士」の認証や公共施設等での植木展示等により、樹芸技術の継承・PRを行うとともに、見本園を活用した生産者と実需者のマッチング支援により、多様化する国内外のニーズに対応した生産体制の構築を図ります。

3. 結びに

夏季の記録的な猛暑や生産資材価格の高止まり等、生産を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、本県園芸農業の更なる発展、「稼げる農業」の実現に向けて、引き続き、(公社)千葉県園芸協会や市町村、JA等の関係機関と一体となって取り組んでまいります。



青果物の販売促進の取組について

全国農業協同組合連合会千葉県本部
園芸部 園芸販売課
東京園芸販売センター長 内田 勝久

昨年は夏の猛暑に加え、10月の天候不順と冬の干ばつなど青果物の生育・作柄に大きく影響し、出荷数量は平年を下回る厳しい状況が続きました。

J A全農ちばはJ Aと連携し、千葉県産青果物の売り場確保と適正な価格形成を消費者に理解を求める啓蒙活動として、市場や関係機関と連携した販売促進を実施しました。

1. 「秋冬野菜の陣」を5年ぶりに開催

J A全農ちばは、千葉県・(公社)千葉県園芸協会との共催で、12月10日(火)大田市場にて開催をしました。

令和元年の開催以来、新型コロナの感染拡大に伴い開催できない状況が続きましたが、今回5年ぶりに開催できる運びとなり、県知事や県本部運営委員会会長、副会長、園芸協会理事長と理事の皆様を招いて開催をしました。

夏の猛暑など天候不順の影響もあり、今年度の秋冬青果物は生育が遅れた中での開催でしたが、この日は千葉県の主要な品目が棚に並び、会場に詰め掛けた大勢の買参人に野菜(ねぎ、人参)の入ったノベルティを配布しました。松本県本部運営委員会会長は、「天候による厳しい生産環境が続く中で、生産資材の高騰に伴うコスト高によりその増加分を販売価格に反映させなければならない。適正な価格形成の実現に向けた取組に対し、御理解をいただくよう努力をしていく。」と挨拶され、適正価格の実現に向けた取組について来場者に理解を求めました。



2. 今年も関西圏で「千葉の旬菜お届け便」開催

12月6日(金)、7日(土)、J A、千葉県、千葉県園芸協会の代表者を参集し、J A全農青果センター(株)協力のもと、本年も関西圏の量販店で千葉県フェア「千葉の旬菜お届け便」を開催しました。

6日は、大阪センターの最新式倉庫の視察や販売状況について研修し、関西圏における流通事情について理解を深めました。

7日は、ここ数年開催している(株)万代をはじめ、(株)ライフコーポレーションや(株)平和堂においても同時開催を行い、販路拡大を図りました。フェア開催当日には、店舗を巡回し、売り場の状況把握や情報の共有を図りました。

今回のフェアでは万代8店舗で「人参のきんぴら」、ライフ1店舗で「さつまいもの焼きいも」、平和堂1店舗で「大根の鬼おろしシラス飯(農家の無骨飯)」の試食も行いました。関西圏のお客様からは「品質が他産地よりもいい。」「大きくて立派なキャベツや大根がこの時期に並ぶ。」と好評を得ており、継続的な売り場づくりに手応えを感じました。



3. おわりに(課題と今後について)

コロナ禍を過ぎて販売促進も以前のような姿に戻ったかには見えますが、マネキンの人手不足などから対面販売がスムーズにできにくいのが現状です。

J A全農ちばは、市場や県と連携しながら産地PRを強調した新しい販促資材の開発や、企業とのコラボによる複合的な宣伝活動などを展開し、主力市場を通じた有力な販売先において千葉県産の売り場を固めていくことに取り組みます。

引き続き、産地の皆様の御協力と御理解を賜りますよう、お願いいたします。



商談支援による販路の拡大について

千葉県農林水産部販売輸出戦略課
販売促進室 主査 鈴木 珠生

販売輸出戦略課では国内向けの県産農林水産物の販路拡大を目的として、年2回、民間商談会へ千葉県ブースを出展しています。令和7年度も引き続き、ブース内出展者を募集し、出展料の一部負担やブース装飾により、商談支援を実施しますので、是非御活用ください。

1. 開催目的と内容

当課では、販路拡大を目的として県産農林水産物又はそれらを原料として使用した商品を扱う事業者を対象に、年に2回、民間商談会へ千葉県ブースを出展しています。1つを商談会初心者向け、1つを全国規模の販路拡大向けと位置づけ、出展先の商談会を決定し、出展者の応募が多数の場合は、選考委員会にて出展者を決定しています。

2. 令和6年度実績

○商談会初心者向け

名称：第14回『食の魅力』発見商談会
日時：令和6年6月18日
会場：東京都立産業貿易センター 浜松町館
主催：第二地方銀行協会
特徴：出展は食品事業者のみ、
バイヤーも食品バイヤーに限定
出展者：4社（ユアサ・フナシヨク(株)、
バルスタック(株)、(株)セガワ、
(株)須藤牧場)
来場者数：2,105名



『食の魅力』発見商談会の様子

○全国規模の販路拡大向け

名称：スーパーマーケット・トレードショー2025
日時：令和7年2月12日から14日
会場：幕張メッセ
主催：スーパーマーケット協会
特徴：国内最大規模の食に関する商談会
出展者：18社（農産、畜産、水産、食のちば
の逸品、1日出展の5枠を設定）

(JAL Agriport(株)、(株)オオノ農園、富士正食品(株)、川光物産(株)、(株)ワンハートエージェント、バルスタック(株)、千葉県漁業協同組合連合会、(有)永井商店、青柳食品(株)、(株)飯塚海苔店、旭食肉協同組合、(株)エムイーシーフーズ、(株)シェフミートチグサ、(株)いっぷく堂、(株)須藤牧場、(株)ヒラノ、(株)SS ビジネスクリエイト研究所、Le Café de Pomme)

来場者数：75,858名（3日間の合計数）



スーパーマーケット・トレードショーの様子

3. 令和7年度の取組予定

令和7年度も引き続き、以下の内容で出展支援を行う予定です。

- ・『食の魅力』発見商談会（令和7年7月4日）
- ・スーパーマーケット・トレードショー（令和8年2月18日から20日）

また、『食の魅力』発見商談会の出展募集は4月に開始し、商談会初心者向けとして応募多数の場合には出展経験がない事業者が優先されるため、これから販路を拡大したい方は是非御活用ください。

【問合せ先】

販売輸出戦略課 販売促進室（作田）
電話：043-223-2889
メール：2889hanbai@mz.pref.chiba.lg.jp

頑張る産地



新規参入で、湿地性カラーの担い手として活躍

千葉県君津農業事務所 改良普及課
上席普及指導員 後藤 真紗子

新規参入の高橋さん御夫婦は、平成29年から君津市小糸地区の豊かな湧き水を利用し、県育成カラー新品種「Brilliant・Bell（以下、ブリリアント・ベル）」を始めとした特産品「湿地性カラー」栽培に取り組んでいます。産地を支える若い担い手として今後の活躍が期待されます。

1. はじめに

高橋伸行さん、綾子さん御夫婦は、平成29年から君津市小糸地区にて湿地性カラー、露地花き生産を行っています。高橋さん御夫婦は、生産者組織ブルームネットに所属し、県育成カラー新品種「ブリリアント・ベル」や、「ウェディングマーチ」を栽培しています。ブルームネットは、湿地性カラーをハウスで咲かせてから収穫し、お客様の手に開いた状態の大きな花を楽しんでいただくことを目標とし、品質の徹底に力を入れています。

2. 就農の経緯

高橋伸行さんは、以前は異業種で働いていましたが、綾子さんの御実家の君津市で仕事を探求中で農業に出会いました。就農を決めてから、自宅、農地探しに2～3年を費やし、やっと見つけた湿地性カラーの生産候補地も、先輩生産者から他をあたったほうがよいと言われる程の耕作放棄地だったそうです。しかし、御夫婦で力を合わせて耕作放棄地を開墾してハウスを建設し、先輩生産者の元で研修を積み、湿地性カラー栽培を軌道に乗せました。



写真1 収穫したカラーと高橋さん御夫婦

湿地性カラーはビニルハウス内に株を植え、年間を通して地下水をかけ流して栽培しており、豊富な地下水がある土地でしか栽培することができません。この

ような特性から、他産地での事例が少なく、地元の生産者も水質や土質の違い等から栽培方法が一定ではないこともあり、困難なことも多かったそうですが、同時にやりがいを感じながら、経験を積んできました。

3. 県育成新品種「Brilliant・Bell」について

高橋さんは、令和3年にデビューした県育成品種「ブリリアント・ベル」も積極的に導入しています。今年出荷して2年目ですが、「ブリリアント・ベル」は植えてから本格出荷できるまでの年数が短く、細い茎で持ちやすく作業性が良いという特徴を持っています。また、しわやしみが出にくく秀品率が高く、収量性が良く市場からの需要があり、単価も高く、今では経営の柱になっています。近年の酷暑の中でも、生育が旺盛なので、夏の暑さの影響を受けにくいのではないかと高橋さんはお考えです。



写真2 ブリリアント・ベルの花

4. 今後の抱負について

湿地性カラーの産地は高齢化により、産地自体が縮小傾向ですが、産地を維持していくためにも、高橋さんは生産量を増やしていきたいと考えています。湿地性カラー産地の未来を支える担い手として、高橋さん御夫婦の今後の活躍が大いに期待されます。



さつまいも生産拡大緊急プロジェクト事業について

千葉県農林水産部生産振興課
園芸振興室 主査 三輪 麻由

国内外ともに需要が急拡大する一方で、全国的に供給が不足しているさつまいもについて、生産・流通体制の強化に必要となる施設整備を支援します。

本事業は令和5年度より実施しており、令和7年度が最終年度となります。

1. 事業の内容

さつまいも生産拡大緊急プロジェクト事業は、①苗の生産・供給体制の整備支援、②貯蔵施設の整備支援で構成されています。

① 苗の生産・供給体制の整備

健全で高品質な苗を安定的に生産・供給するために、必要な育苗用パイプハウスの整備や育苗に必要な保温資材の導入を支援します。

【事業主体】 認定農業者、認定新規就農者、農業協同組合 等

【補助率】 1/3以内

【補助対象】 育苗用パイプハウス、電熱線等の保温資材



育苗用パイプハウス
(苗の増殖)



畑への植付け (5月頃)



生育中の状況 (7月頃)

② 貯蔵施設の整備

高単価時期の出荷に必要な貯蔵庫の整備、貯蔵に必要なコンテナの導入を支援します。

【事業主体】 認定農業者、認定新規就農者、農業協同組合 等

【補助率】 1/3以内 (貯蔵用コンテナは上限1,000千円)

【補助対象】 定温貯蔵庫、貯蔵用コンテナ*

※ 貯蔵用コンテナは定温貯蔵庫の整備と一体的に整備する場合に限る。



定温貯蔵庫



2. 令和5年度、6年度の実績及び令和7年度要望

令和5年度、6年度の2年間で、9市町、延べ67件の農業者や団体に対し、合計約2億1千万円の補助を予定しており、その結果、育苗施設43件、貯蔵庫24件が整備されることとなります。令和7年度は、4市町、延べ24件の農業者等から育苗施設12件、貯蔵庫12件の整備を予定しており、予算に残額が生じた場合は、予算の範囲内で5月頃追加要望調査を実施する予定です。

3. 今後の取組

出荷量の拡大に向け、次に課題となるのは出荷調整作業の効率化と考えています。今後は、大規模生産者や規模拡大の意向の高い生産者等に対し、「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業などを活用して、出荷調整機械や施設の導入を支援していきます。

また、更なる生産性の向上が期待できる共同洗浄選果施設の整備に向けて、関係機関と連携し、国庫事業の活用に向けた伴走支援を行っていきます。

輸出促進



本県の農林水産物輸出の取組状況

千葉県農林水産部販売輸出戦略課 輸出支援室

千葉県では、台湾の輸入規制の緩和、成田市場の本格稼働等を踏まえ、輸出ポテンシャルのある品目や、輸出のターゲットとなる国・地域を整理し、生産・流通・販売の各段階における支援の方向性等をまとめ、「千葉県農林水産物輸出活性化取組方針」を令和6年5月に策定しました。

令和6年度は、本取組方針に基づき、さつまいもや水産物のモデルルート実証や切花、いちごの販路開拓を行うとともに、台湾においては、梨、さつまいも、キンメダイの輸出実証・プロモーションに取り組みました。また「輸出スタートアップ事業者向けサポート事業」を新たに展開するなど、輸出事業者の裾野拡大に向けた取組も進めているところです。

今後、取組方針に基づき、「稼げる農林水産業の実現」を目標に、継続的かつ戦略的に輸出拡大に取り組んでいきます。

【千葉県の輸出ポテンシャルのある品目】

	航空輸送	海上輸送
農産物	いちご、メロン、切花	さつまいも、なし、米、植木、 その他野菜
水産物	キンメダイ、アワビ、 その他魚類（冷蔵を想定）	サケ類、カツオ、マグロ、イワシ類 （冷凍を想定）
畜産物	—	鶏卵（牛肉、豚肉（冷凍を想定））



台湾でのさつまいものプロモーション

【千葉県の輸出ターゲット国・地域】

全般	台湾、マレーシア、タイ、北米
水産物	台湾、マレーシア、タイ、北米、ベトナム、EU、中東
水産物以外	台湾、マレーシア、タイ、北米、香港

※上記以外に、大型量販店との連携を踏まえた特定のターゲット国・地域を定めることも有効



“日本の食品”輸出EXPOでの千葉県ブース出展

県産農林水産物の輸出にチャレンジ！ ～輸出関係補助事業募集のお知らせ～

県では、県産農林水産物及びその加工品の輸出促進に向けて、「千葉の農林水産物輸出促進事業」の実施希望者を募集します。

本事業は生産者団体等の自主的な取組を支援するとともに、海外へ輸出する際に必要な施設・機械等の整備の支援を行い、海外販路の拡大を進めることで、本県農林水産業の活性化に資することを目的としています。

新たな輸出の取組を検討されている場合は是非御活用ください。

1. 対象団体：市町村、農業協同組合、営農組織等
2. 対象商品：本県産の農林水産物及びその加工品
3. 補助・支援対象
 - (1) 千葉の農林水産物輸出支援事業（ソフト）：
海外市場調査、輸出に向けた生産体制の整備、試験輸出、海外での販促活動等に要する経費
 - (2) 千葉の農林水産物輸出環境整備事業（ハード）：
輸出に資する機械・施設等の整備に要する経費
4. 予算額
ソフト：1,500万円、ハード：500万円
5. 助成の内容
補助率：事業費の2分の1以内
6. 応募方法

県ホームページを御確認の上、事業実施計画書を締切日(令和7年4月15日(火)17時)までに御提出ください。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/ryuhan/bosyu/2024/export/hojozigyoku-2025.html>

【お問合せ先】千葉県農林水産部販売輸出戦略課輸出支援室
TEL：043-223-3086